



今どきコラム-42

中国雑談

### 不足している技術労働者

富士康科技集団（フォックスコン・テクノロジー・グループ）の創始者の郭台銘（テリー・ゴウ）総裁が、国務院発展研究センターが主催した「中国発展ハイレベルフォーラム2017」で、問題を投げかけた。「現在の大学教育と工場の実際の操業現場との差はとて大きく、大学生は一般的に手を使う能力が劣っている。富士康が採用した多くの大学生は、みな現場のライン生産には従事したらない。大学生が現場の仕事に従事することを奨励するような何らかの政策が政府にないものだろうか」

郭氏のこの疑問は、現在の中国製造企業が普遍的に直面している「技術労働者不足」という難題を反映したものだ。社会科学文献出版社が最近発表した2017年人材ブルーブック『中国人材発展報告（NO.4）』でも、この点が裏付けられている。このレポートでは、中国の高級技術労働者不足は1千万人にも達するとされている。一方で大量の新卒生が就職難に悩み、一方では企業は技術労働者を求めても得ることができず、構造的な人材不足がますます深刻化している。

新華社傘下の『経済参考報』4月17日付けの記事では、中華全国総工会（中国労働組合の最高指導機関）党組織のメンバーである李守鎮氏が、「ハイレベルの技術労働者は実体経済発展のカギであり、支えとなる力であり、世界の工業発展史を見渡しても、工業強国はすべてエンジニアや技術者の大国である。日本では産業全体の技術者グループのうち高級技術者の割合が40%を占め、ドイツでは50%に達するが、中国ではわずか5%前後に過ぎず、全国の高級技術者不足は1000万人近くに達する」と語っている。

「技術労働者不足」のもとで、まったく新たな商売も生まれているようだ。それは、すべてのメンバーが熟練労働者の比較的定着したグループで、1本1本の生産ラインが必要とする技術作業を丸ごと請け負う、人手不足であればどこでも駆けつけるという、「生産ライン請負」である。

技術労働者不足という局面を変えるために、一部の地方では職業訓練学校などに頼って、積極的な模索を行っている。例えば杭州蕭山技師学院では、5年制の「高級技術労働者+



専科学校卒の学歴」と、6年制の「技師+大学本科（学部）卒の学歴」を試行し、これをもとにさらに「高級技術能力+高学歴」の成人高等教育と在職者向け技能研修の完全なシステムをつくりあげる。学生は実習期間中にすでに SIASUN（新松ロボット自動化）、南車集団、万向集団などの有名企業にこぞって採用されたという。

しかし、各地の職業学校がいかに教育訓練の試みを進めようと、全体から見ると技術者不足問題には明らかな緩和が見られず、これは中国製造業のモデルチェンジの歩みをひどく遅らせるものとなるだろうと思われる。

（『日系企業リーダー必読』編集長 陳言）